

(7) クモ類

【掲載種の解説（クモ類）に関する凡例】

【分類群名等】

対象種の本調査における分類群名、分類上の位置を示す目名、科名等を各頁左上に記述した。目・科の範囲、名称、配列はレッドリストに従った。

【評価区分】

対象種の愛知県における評価区分を各頁右上に記述した。参考として「環境省レッドリスト 2019」の全国での評価区分も各頁右上に記述した。また、各評価区分に対応する英文略号も同じ場所に記述した。

【和名・学名】

対象種の和名及び学名を各頁上の枠内に記述した。

【選定理由】

対象種を愛知県版レッドデータブック掲載種として選定した理由について記述した。

【形態】

対象種の形態の概要を記述し、写真またはスケッチを掲載した。

【分布の概要】

対象種の分布状況の概要を記述した。また、本調査及び過去のレッドデータブックあいち（2002年版ブック・2009年版ブック・2015年版リスト）作成時の調査において、対象種の生息が現地調査、文献調査及び標本調査によって確認された地域のメッシュ（標準地域メッシュ・システムにおける5倍メッシュ）を県内分布図として掲載し、現地調査による確認地域、文献調査または標本調査による確認地域を●印で表示した。なお、同一メッシュ内に含まれる生息地が複数であっても1点として表示した。

【生息地の環境／生態的特性】

対象種の生息地の環境条件及び生態的特性について記述した。

【現在の生息状況／減少の要因】

対象種の愛知県における現在の生息状況、減少の要因等について記述した。

【保全上の留意点】

対象種を保全する上で留意すべき主な事項を記述した。

【特記事項】

以上の項目で記述できなかった事項を記述した。

【引用文献】

記述中に引用した文献を、著者、発行年、表題、掲載頁または総頁数、雑誌名または発行機関とその所在地の順に掲載した。ウェブページ上の情報については、URL を掲載した。

【関連文献】

対象種に関連する文献の内、代表的なものを、著者、発行年、表題、掲載頁または総頁数、雑誌名または発行機関とその所在地の順に掲載した。

【 クモ類 執筆責任者 】

緒方清人

須賀瑛文

【 クモ類 調査協力者 】

次の方々に現地調査、標本提供、資料参照等で協力していただいた。

赤星大和 石田 才 伊藤賢治 大熊千晶 大原満江 緒方權人 加藤修朗

川田奈穂子 倉田利道 小池 彩 佐橋暁登 杉山時雄 松井十獅ろう

(敬称略)

ミカワホラヒメグモ *Nesticus mikawanus* Yaginuma

【選定理由】

豊橋市嵩山町の洞窟群にのみ生息する。模式産地は新穴で、1979年に新種記載された（八木沼, 1979）。県内唯一の固有種である。洞窟群のうち、調査できたのは蛇穴と水穴だが、どちらも個体数は少ない。

【形態】

体長 4～5mm。頭胸部は赤褐色で腹部は黄褐色。

個体により黒色の斑紋があるものと無斑型のものがある（新海, 2006）。雄の触肢の小杯葉は大きく、指を広げたような形をしている。この小杯葉の特異な形が分類上の要点となる。特に形態的に見て、本種は他の群との関連がないと報告されている（T. Yaginuma, 1979）。



豊橋市嵩山町(蛇穴), 2008年7月6日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

愛知県固有種で、豊橋市嵩山町の洞窟群（蛇穴・新穴・水穴・長彦洞・カエル洞）にのみ分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

蛇穴では洞窟の入り口より、10～30メートルの間に生息することが多い。壁面の窪みなどに不規則網を張る。網の上部に静止する雌成体は周年みられるが、雄成体は春秋の時期に限られる。

【現在の生息状況／減少の要因】

2006年から2018年の蛇穴の調査では8～22頭が確認された。増減の要因は不明だが、現在の環境が維持されれば、個体数は維持されると思われる。

【保全上の留意点】

蛇穴は自由に出入りができ、環境悪化が懸念される。立ち入りは研究目的のみにすべきである。

【特記事項】

県条例に基づく指定希少野生動植物種に指定されている。

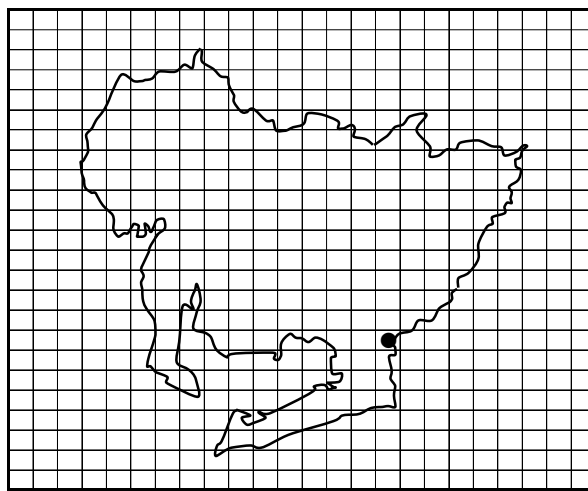
【引用文献】

T. Yaginuma, 1979. A Study of the Japanese Species of Nesticid Spiders. 追手門学院大学文学部紀要, 13: 255-287.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.22. 文一総合出版, 東京.

【関連文献】

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, p.57. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2017. 日本のクモ増補改訂版, p.196. 文一総合出版, 東京.
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, p.347. 東海大学出版会, 神奈川.
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.222,524. 東海大学出版会, 神奈川.

県内分布図



(緒方清人)

ババハシリグモ *Dolomedes fontus* Tanikawa et Miyashita

【選定理由】

県内では極めて限られた地域に生息する。新城市作手岩波、豊田市市木町、豊田市（旧下山村）の3ヶ所に生息する。どの生息地も極めて個体数は少ない。今後、生息地の環境悪化によっては、危機的な状態におちいることが懸念される。

【形態】

体長雌 11～18mm、雄 9～15mm（谷川・宮下, 2008）。雌雄とも背甲は濃茶褐色で、中窩に茶色の細い縦条がある。両縁は幅広い茶褐色で外縁は灰白色。雌雄とも腹部背面は濃茶褐色で、心斑は淡褐色。両縁は幅広い茶褐色で、背甲と腹部上面とも配色パターンは似る。4脚とも各節は淡褐色で環はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田市・新城市に分布する。

【国内の分布】

千葉県・東京都・栃木県に分布する（新海ほか, 2018）。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

山間部の湿地や湿潤地に生息する。新城市作手岩波は湿地だが、豊田市の2ヶ所は湿潤地である。幼体で越冬し、7～9月頃に成体になる。雌は8～9月にかけて産卵し、卵のうを触肢で抱え込み、口器にくわえて徘徊する。

【現在の生息状況／減少の要因】

1991年6月9日に豊田市勘八町の山間部にあるため池周辺の湿潤地で雌雄6頭を採集したのが国内初記録である。その後、ため池の水量が増し生息地は消滅した。その後、数回調査を実地したが確認できず、絶滅したと思われる。現在は新城市作手岩波、豊田市市木町、豊田市（旧下山村）で確認されているが、いずれも個体数は極めて少ない。生息地の環境悪化が主な減少要因と考えられる。

【保全上の留意点】

長ノ山湿原は愛知高原国定公園第1種特別地域と愛知県天然記念物に指定されている。湿原の開発はできないので、個体数は維持されると思われる。しかし、隣接する湿原には自由に立ち入ることができ、植物や昆虫の撮影目的等のためにひどく踏み荒らされている。この湿原にも生息を確認しているので、立ち入りを制限する等の対策が必要である。元々数が少ない種と思われるので、生態を明らかにするためにも継続調査が望まれる。また、豊田市の生息地は保護されている。

【特記事項】

同属のイオウイロハシリグモ（*D. sulfureus*）は色彩変異があり、スジボソ型やスジブト型の色彩が本種に酷似するので注意を要する。

【引用文献】

Akio Tanikawa & Tadashi Miyashita, 2008. A revision of Japanese spiders of the Genus *Dolomedes* (Araneae:Pisauridae) with its phylogeny based on mt-DNA. *Acta arachnol.*, 57(1): 19-35.

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

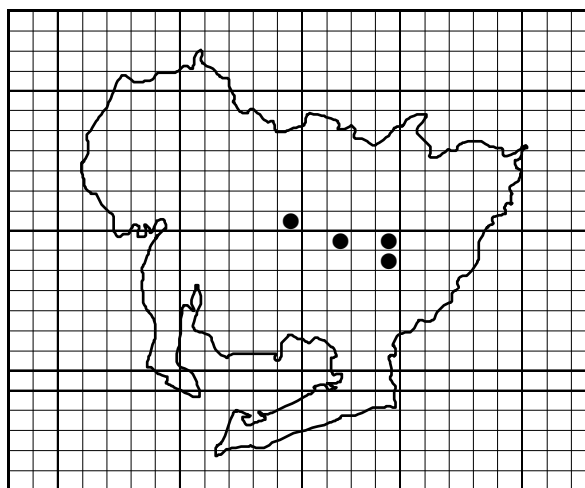
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, p.213. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.313,554. 東海大学出版会部, 神奈川.



♀. 新城市作手岩波町（長ノ山湿原）, 2010年5月15日, 緒方清人 撮影

県内分布図



（緒方清人）

ミヤマシボグモモドキ *Zora nemoralis* (Blackwall)

【選定理由】

県内の極めて限られた地域に生息する。もともと個体数が少なく、生息地の破壊で急速に減少していると考えられる。

【形態】

体長雌 3.5～5.0mm、雄 2.5～4.0mm（小野, 2009）。雄の背甲は濃茶褐色で中央・側縁・外縁に多数の白色斑がある。腹部背面は濃茶褐色で白色の斑が多数ある。4脚とも各節は黒色だが、跗節は赤褐色。全体に黒い印象を受ける。雌の背甲は茶褐色で、両縁に濃茶褐色の波形模様で外縁は灰白色。4脚とも淡褐色で濃茶褐色の環がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田市（旧稲武町）に分布する。

【国内の分布】

北海道、本州（山梨県・群馬県・長野県）に分布する（新海ほか, 2018）。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

山地の広葉樹の地表を徘徊する。幼体で越冬し、雄は 5 月ごろから、雌は 6～7 月ごろに成体になる。産卵や卵のうの時期など詳しい生態は明らかになっていない。

【現在の生息状況／減少の要因】

愛知県初記録は 2011 年 6 月 3 日に、長野県との県境付近の豊田市大野瀬町池ヶ平で雌 1 頭が採集されたが、その後の調査では確認されていない。2 例目は 2011 年 9 月 12 日に、同市稲武町月ヶ平で幼体 8 頭が確認された。しかし、2012～2013 年にかけて歩道の拡張工事により、大部分の生息地が破壊されて 1～3 頭と激減した。2018 年 5 月の調査では 10 数頭確認されたので、増加傾向にある。生息地の保全にあたり、歩道拡張や伐採等の工事は慎むべきである。

【保全上の留意点】

落葉樹の地表を徘徊する種なので、伐採は慎むべきである。また、歩道の拡張工事は直接生息地の破壊につながるため、これ以上の工事は慎むべきである。

【特記事項】

国内では本種とシボグモモドキ (*Z. spinimana*) の 2 種が知られている。シボグモモドキの雌は本種の雌と酷似するが体長は 5～6mm と大きく、脚の各節は太く膝節・脛節・跗節・ふ節は濃褐色をしている。シボグモモドキは県内からは発見されていない。ミヤマシボグモ科からツチフクログモ科に変更された（谷川, 2017）。

【引用文献】

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, p.469. 東海大学出版会, 神奈川.
新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.
谷川明男, 2017. 日本産クモ類目録 ver.2017 R1. (<http://www.Asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/japan.pdf>)

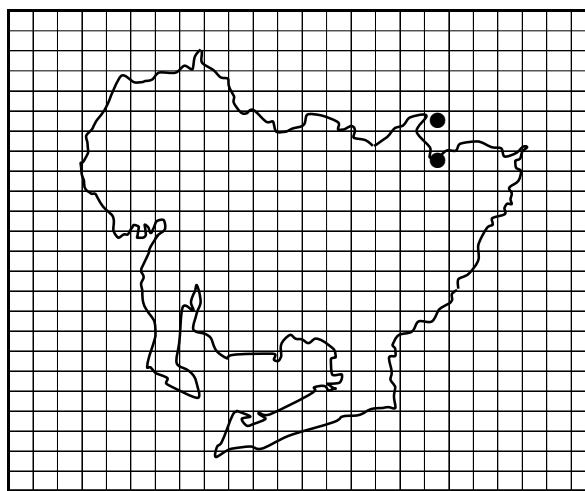
【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑, pp.132, 262. 偕成社, 東京.
新海栄一, 2017. 日本のクモ, p.273. 文一総合出版, 東京.
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.313, 554. 東海大学出版会, 神奈川.
緒方清人, 2013. ミヤマシボグモモドキの生息地が破壊された, 蜘蛛. 46: 19-20. 中部蜘蛛懇談会.



♀. 豊田市稲武町月ヶ平, 2012 年 5 月 7 日, 緒方清人 撮影

県内分布図



(緒方清人)

アケボノユウレイグモ *Belisana akebona* (Komatsu)

【選定理由】

山間部の石垣・崖地・洞窟などの暗所に生息するが、どの生息地においても個体数は少ない。近年、道路工事や、生息環境の乾燥化等の影響で生息域が縮小し、個体数の減少が懸念される。

【形態】

体長 2～3mm。各脚が非常に長い。眼は 6 眼で左右に 3 眼ずつの 2 群になっている。腹部は丸く後方で高まる。背面に 3～4 対の斑紋があるが、色彩に変化が多く斑紋のない個体もある。



岡崎市(旧額田町)石原町(闊苧溪谷), 2007 年 5 月 23 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

岡崎市（旧額田町）、豊橋市、新城市（旧鳳来町）、北設楽郡設楽町に分布する。

国内では、本州、四国、九州に分布する（新海ほか, 2018）。

【生息地の環境／生態的特性】

湿った暗所を好み、石垣のすき間や崖地のくぼみ、洞窟の壁面などに不規則網を張り、網の上部に静止する。

【現在の生息状況／減少の要因】

洞窟（嵩山蛇穴）、湿り気のある崖地、石垣の隙間、トンネル内などの暗所に生息する。北設楽郡設楽町における 2006～2015 年の調査では、生息を確認することができなかった。

【保全上の留意点】

崖地の工事は生息場所が消滅する危険度が高く、最大限の配慮が望まれる。石垣の修復はすき間を設けるように施工することが望まれる。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑, pp.27,171. 偕成社, 東京.

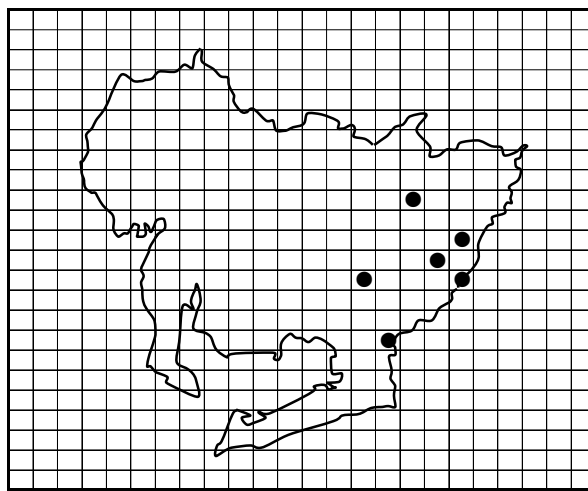
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, p.29. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2017. 日本のクモ増補改訂版, p.93. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, p.111. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.47,488. 東海大学出版会, 神奈川.

県内分布図



(緒方清人)

シロタマヒメグモ *Enoplognatha margarita* Yaginuma

【選定理由】

北方系で、本県が南限にあたる（新海ほか, 2018）。

県内での記録は、豊田市（旧稲武町）で1例、設楽郡豊根村で1例、同設楽町で1例の合計3例である。確認は各1頭で、極めて少ない。2011年の池の平での確認を最後に、記録されていない。

【形態】

体長 4～6mm。頭胸部は黄褐色。腹部は卵形で淡黄色。腹部上面の両縁に茶褐色または黒灰色の葉状斑がある。



豊田市大野瀬町池の平, 2011年6月3日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

豊田市（旧稲武町）大野瀬町池の平、北設楽郡豊根村（茶臼山）、設楽町裏谷から記録された。

国内では、北海道、本州に分布する（新海ほか, 2018）。本県は南限にあたる。

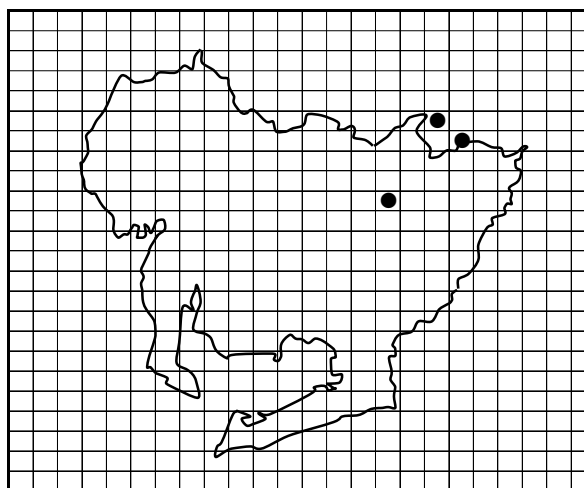
【生息地の環境／生態的特性】

寒地性のクモで、山地の草原に棲む。大型草本類の草間に不規則網を張り、草の葉をまわめて住居の中に潜む。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内では、奥三河の山地から稀に記録されるが、適した環境は少ない。詳細な生息状況は不明である。

県内分布図



【保全上の留意点】

生息地では、周辺の森林を含めて草原の環境保全に留意する。特に、道路工事などの開発工事の時には注意する必要がある。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑, pp.37,181. 偕成社, 東京.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, pp.9,39. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2017. 日本のクモ増補改訂版, p.179. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, p.360. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.77,495. 東海大学出版会, 神奈川.

(緒方清人)

キジロオヒキグモ *Arachnura logio* Yaginuma

【選定理由】

主に里山や低山の林内に生息するが、もともと個体数は少なく、散発的に記録される程度である。

【形態】

体長雌 25～28mm、雄 1.5mm。雌の背甲は黄白色。腹部は黄褐色で前方は二つに分かれ、背甲の後部を覆うほど突出する。後端は長く尾状に伸び、その先端部は多数の毛で覆われる。胸版は黄白色で多数の黒点がある。雄は全体に黒褐色で、腹部は卵形で別種のような印象を受ける。



岡崎市天神山緑地, 2004年7月25日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

低山や山地の樹林に広く分布するが、個体数は少ない。確認された地域は瀬戸市、豊田市（旧豊田市・旧稲武町）、岡崎市、西尾市である。

国内では、本州、四国、九州、南西諸島に広く分布する（新海ほか, 2018）。

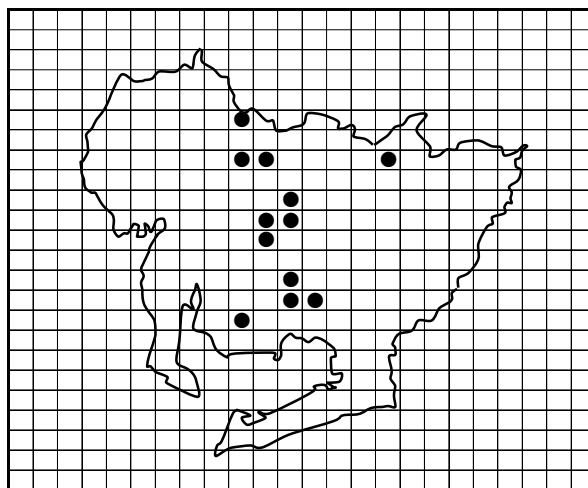
【生息地の環境／生態的特性】

二次林や落葉広葉樹林に生息する。枝葉間にキレ網と呼ばれる円網を張り、その中心にとまる。比較的低い位置に網を張る習性がある。

【現在の生息状況／減少の要因】

個体数が少ないので不明な点が多い。分布を含めて今後の調査が必要である。2018年に西尾市でも発見された。

県内分布図



【保全上の留意点】

生息地における樹木の伐採は慎むべきである。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

- 千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑, pp.77,213. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, p.116. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2017. 日本のクモ増補改訂版, p.254. 文一総合出版, 東京.
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, p.423. 東海大学出版会, 神奈川.
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑. pp.130,507. 東海大学出版会, 神奈川.

(緒方清人)

コケオニグモ *Araneus seminiger* (L.Koch)

【選定理由】

県内では、もともと採集・観察例の少ない種（希産種）である。さらに、生息に適した環境が少なく、開発等に伴う生息域の縮小、個体数の減少が心配される。

【形態】

体長雌 20～27mm、雄 12～14mm。大型のオニグモで、背甲は黄褐色で後方は赤褐色になる。腹部は緑色でウメノキゴケの色に似る。両肩は隆起し葉状斑とも黒褐色。歩脚は緑色で黒褐色の環斑がある。



北設楽郡設楽町裏谷, 2015年8月7日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、豊田市（旧稲武町）、北設楽郡設楽町・豊根村に分布する。

国内では、北海道、本州、九州、南西諸島に分布する（新海ほか, 2018）。

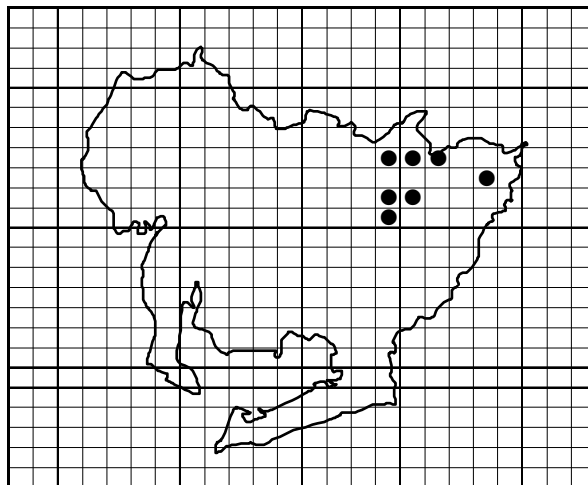
【生息地の環境／生態的特性】

山地に生息し、7月～9月に成体になる。夕方から夜間に枝葉間に円網を張るが、日中は網から離れて、樹幹の表面に静止していることが多い。

【現在の生息状況／減少の要因】

森林に生息しているが、個体数は少ない。全国的に珍しいクモであるが、豊田市や設楽町等から新産地が発見された。また生息地においても記録されない年もあり、個体数や減少率は不明である。

県内分布図



【保全上の留意点】

森林に生息するので、生息地での樹木の伐採は慎むべきである。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, pp.21,94. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2017. 日本のクモ増補改訂版, p.258. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.451-452,626. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.133,509. 東海大学出版会, 神奈川.

（緒方清人）

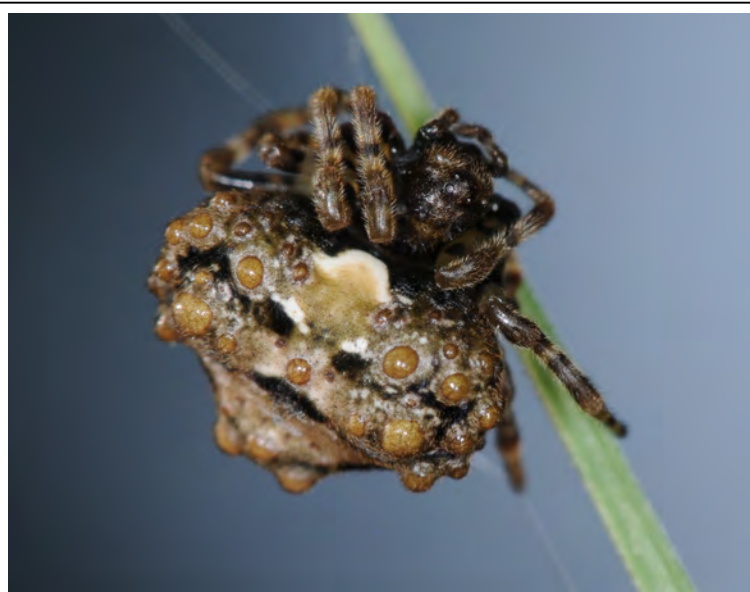
マメイタイセキグモ *Ordgarius hobsoni* (O. P.-Cambridge)

【選定理由】

全国的に採集記録は少ない。
県内でも発見例は少なく、特に
雄は採集されていない。

【形態】

体長雌 8～9mm、雄 2mm 前後。
腹部背面から側方・後方にかけて多数の褐色半球状の隆起がある。マメイタの名は、褐色半球状の隆起が和菓子の豆板に似ているからで、イセキは発見者の井関氏の名に因んで付けられた。



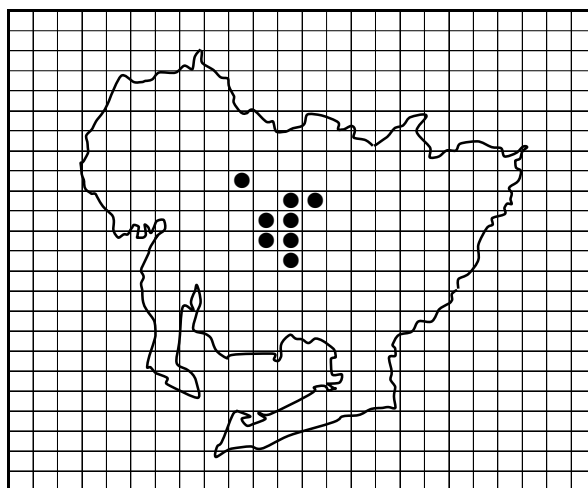
岡崎市町夏山町おおだの森, 2012 年 7 月 25 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、日進市五色園、岡崎市夏山町、豊田市琴平町・加茂川町・王滝町・野見町・勘八町・足助町、新城市日吉で確認されたが、どの地域も単独個体である。

国内では、本州、四国、九州、南西諸島に分布する（新海ほか, 2018）。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

ススキなどイネ科植物を好み、昼間は葉裏に静止し夜間に活動する。第 2 脚の先端に粘球の付いた糸を釣り下げ、それを回転させて蛾の仲間を捕獲する。

【現在の生息状況／減少の要因】

散発的に発見される程度で、減少の要因は不明である。

【保全上の留意点】

もともと個体数は少なく、発見地の保全が重要である。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.112. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.165. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.429,623. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.189,518. 東海大学出版会部, 神奈川.

（緒方清人）

ムツトゲイセキグモ *Ordgarius sexspinosus* (Thorell)

【選定理由】

県内の確認地は 6 市 8 地域で、いずれも単独や数個体である。

【形態】

体長雌 8～10mm、雄 2mm 前後。雌の頭胸部は濃褐色で、尖った 2 本の突起が縦に並び、後方に 4 突起が横に並ぶ。腹部背面は黒褐色で白い網目模様がある。その両肩は隆起し、その上に小突起がいくつか見られる。後端にも 4 個の突起がある。雄は小さく、体色も一様に黒褐色で別種のような印象を受ける。



常滑市菅場, 2016 年 7 月 5 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

名古屋守山区・千種区、常滑市菅場、豊田市琴平町・本新町、知立市西中町、豊川市音羽町、新城市門谷・日吉で確認された。どの地域においても、個体数は単独か数個体である。

国内では、本州（関東以南）、四国、九州に分布する（新海ほか, 2018）。

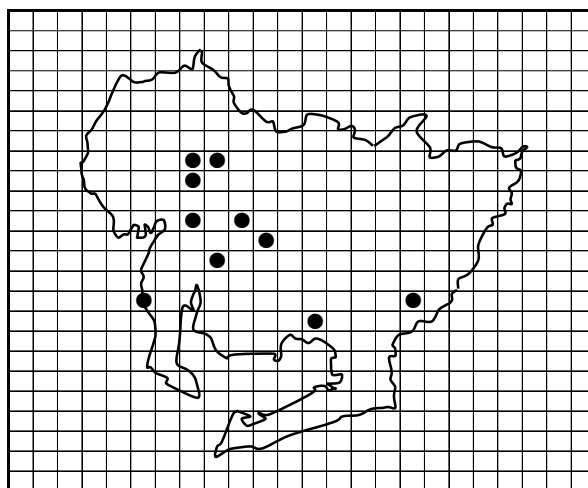
【生息地の環境／生態的特性】

生態はマメイタイセキグモとほぼ同じで、日中はクワなど広葉樹の葉の裏に静止し、夜間に活動する。第 2 脚の先端に数個の粘球の付いた糸を釣り下げ、それを回転させて蛾の仲間を捕獲する。

【現在の生息状況／減少の要因】

もともと個体数の少ない希産種である。散発的に発見される程度で、減少の要因は不明である。

県内分布図



【保全上の留意点】

発見地の環境を変えないような努力が必要である。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. pp.83,217. 偕成社, 東京.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.112. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.165. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.429,623. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.189,518. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)

ワクドツキジグモ *Pasilobus hupingensis* Yin, Bao et Kim

【選定理由】

県内では稀に発見される程度である。

【形態】

体長雌 8～10mm、雄 2～3mm。
雌の体色は茶褐色で、腹部背面に多数の隆起がある。腹部はやや菱形で、縦巾より横巾が 2 倍ほど長い。名の由来のワクドは地方名でヒキガエルのこと。ツキジは発見者である築地氏による（新海, 2006）。



岡崎市池金町, 2019 年 5 月 5 日, 川田奈穂子 採集, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

岡崎市池金町、豊田市琴平町（大原, 2008）、同京ヶ峰、北設楽郡設楽町で確認された。

国内では、本州（関東以南）、九州、南西諸島に分布する（新海ほか, 2018）。

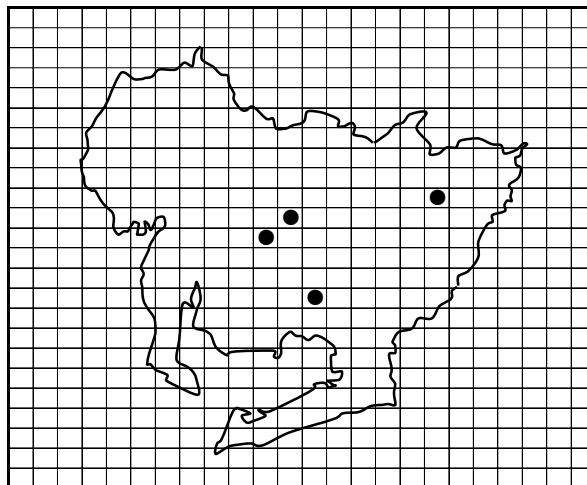
【生息地の環境／生態的特性】

低山の常緑、落葉広葉樹の混生する低木林や林床のシダ植物などから発見される。主に日中は葉の裏上に静止し、夜間に樹間に粘性の強い三角形の水平の網を張る（新海, 2006）。

【現在の生息状況／減少の要因】

もともと個体数の少ない種で、稀に発見される程度である。減少の要因は不明である。

県内分布図



【保全上の留意点】

生息地での伐採や開発は慎むべきである。

【引用文献】

- 新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.165. 文一総合出版, 東京.
大原満枝, 2008. トヨタの森の蜘蛛たち ワクドツキジグモ. まどい No.46. 中部蜘蛛懇談会.
新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

- Akio Tanikawa, Yung-Hau Chang & I-Min Tso, 2006. Identity of a Japanese spider species recorded as *Pasilodus bufoninus* (Araneae: Araneidae), with a description of the male considering the sequence of mtDNA.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.112. 保育社, 大阪.
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.428,623. 東海大学出版会, 神奈川.
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.189,518. 東海大学出版会部, 神奈川.

（緒方清人）

チクニドヨウグモ *Metleucauge chikunii* Tanikawa

【選定理由】

県内では、局地的に分布し個体数も少ない。また、生息に適した環境が少なく、河川工事等に伴う生息域の縮小により、個体数の減少が心配される。

【形態】

体長雌 7.5～12mm、雄 6.5～8mm。背甲は灰褐色で、眼域から中央にかけて黒褐色の縦斑がある。腹部上面は濃茶褐色の斑紋で縁どられ、腹部中央に白色の縦斑がある。更に、その中に前方から中央にかけて濃茶褐色の縦斑がある。



豊田市王滝町(王滝溪谷), 2007年5月23日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、豊田市（旧豊田市・旧稲武町・旧足助町）、北設楽郡設楽町、岡崎市（旧額田町）に分布するが、局地的である。

国内では、北海道、本州、四国、九州に分布する（新海ほか, 2018）。

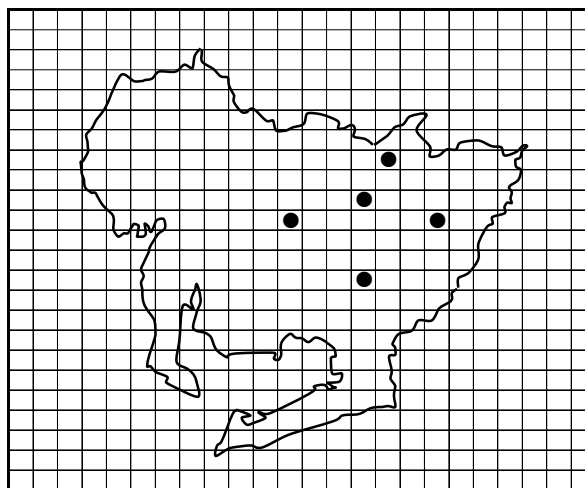
【生息地の環境／生態的特性】

山地の溪流の石の間に水平円網を張る。夜行性で昼間は石の表面に潜んでいる。主にカゲロウやトビケラなど水生昆虫を捕食する。

【現在の生息状況／減少の要因】

豊田市王滝溪谷では 10 数頭が生息しているが、他の地域では数頭と少ない。生息域での河川工事等は注意すべきである。

県内分布図



【保全上の留意点】

生息地での河川工事の際は、水流に幾つも岩を残し、円網が張れるように施工すべきである。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑, p.221. 偕成社, 東京.
新海栄一, 2017. 日本のクモ増補改訂版, p.245. 文一総合出版, 東京.
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, p.480. 東海大学出版会, 神奈川.
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.209,521. 東海大学出版会, 神奈川.

(緒方清人)

キヌキリグモ *Herbiphantes cericeus* (S. Saito)

【選定理由】

県内では、奥三河地方のごく限られたブナ林の林床に生えるスズタケの葉裏に生息する。生息数は少なく、伐採や開発等に伴う生息域の縮小で個体数の減少が懸念される。

【形態】

体長 4～5mm。頭胸部は肉色で、中央に黒色の細い縦条がある。腹部上面は黄白色で、中央は茶褐色。2～3 対の黒色斑がある。



北設楽郡設楽町裏谷, 2008 年 7 月 21 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、豊田市（旧稲武町）面ノ木園地と設楽郡設楽町裏谷のブナ林に分布する。

国内では、北海道、本州、四国、九州に分布する（新海ほか, 2018）。

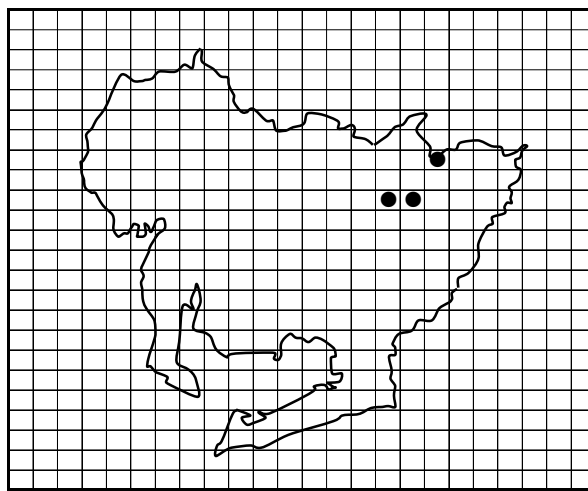
【生息地の環境／生態的特性】

ブナ林の林床に自生するスズタケに生息する。葉裏に皿網を張り、その中に潜んでいる。

【現在の生息状況／減少の要因】

2017 年ごろからスズタケが一斉に枯れて、葉裏に皿網が張れなくなり、危機的な状態にある。2018 年以降は面ノ木園地、裏谷とも記録されていない。

県内分布図



【保全上の留意点】

スズタケの再生が望まれる。また、温帯林を含めた環境を保全すべきである。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑, pp.48,189. 偕成社, 東京.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, pp.16,73. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2017. 日本のクモ増補改訂版, p.208. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, p.327. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.235,529. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)

キノボリキヌキリグモ *Herbiphantes longiventris* Tanasevitch

【選定理由】

県内では、豊田市（旧稲武町）面ノ木園地と北設楽郡設楽町裏谷のブナ林に生息する。希産種で、極めて個体数の少ない種である。森林の伐採や開発等に伴う生息域の縮小で、さらなる個体数の減少が懸念される。

【形態】

体長 3～4mm。頭胸部は褐色。腹部は細長く黄褐色。雄は頭胸部・腹部とも濃褐色である。歩脚は細長く、各節に黒色輪紋がある。



北設楽郡設楽町裏谷, 2007 年 9 月 15 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

豊田市稲武町面ノ木園地と北設楽郡設楽町裏谷に生息する（緒方, 1996）。

国内では、北海道、本州四国、九州に分布する（新海ほか, 2018）。

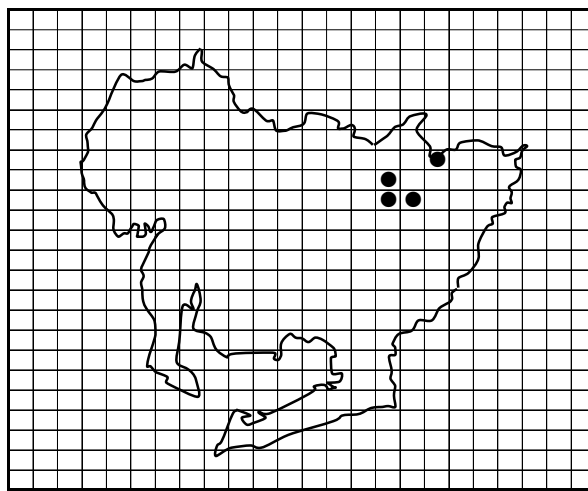
【生息地の環境／生態的特性】

寒地性のクモで、温帯林の樹幹に着生するコケ類の表面にシート網を張る。8～10 月ごろ成体になる。

【現在の生息状況／減少の要因】

面ノ木園地では 2012 年 7 月に 1 頭だけ確認されたが、その後記録されていない。確実な生息地は段戸裏谷だけである。もともと個体数は少ない。さらに、最近の調査では、生息木になるような樹が少なくなっており、本種も減少傾向にあるものと思われる。

県内分布図



【保全上の留意点】

ブナ林の保全が望まれる。また、樹木の伐採は慎むべきである。

【特記事項】

別名キハダキヌキリグモと呼ばれる（新海, 2017）。

【引用文献】

緒方清人, 1996. 真正クモ類. 設楽町誌 自然編, pp.471-509. 設楽町.
新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.
新海栄一, 2017. 日本のクモ増補改訂版, p.208. 文一総合出版, 東京.

【関連文献】

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, p.327. 東海大学出版会, 神奈川.
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.235,529. 東海大学出版会, 神奈川.

（緒方清人）

シノビグモ *Shinobius orientalis* (Yaginuma)

【選定理由】

山地の渓流域に局地的に生息するが、個体数は単独や数個体と少ない。県内では生息適地が少なく、治水・河川工事等に伴う生息域の減少や、個体数の減少が心配される。

【形態】

体長 6～8mm。背甲は黄褐色で黒褐色の斑紋がある。腹部上面には黄褐色で黒褐色の複雑な斑紋がある。歩脚は黄褐色で輪紋がある。



北設楽郡設楽町駒が原, 2008年5月13日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

豊田市（旧旭町・旧足助町・旧稲武町）、北設楽郡設楽町（旧設楽町・旧津具村）に分布する。

国内では、北海道、本州、四国、九州に分布する（新海ほか, 2018）。

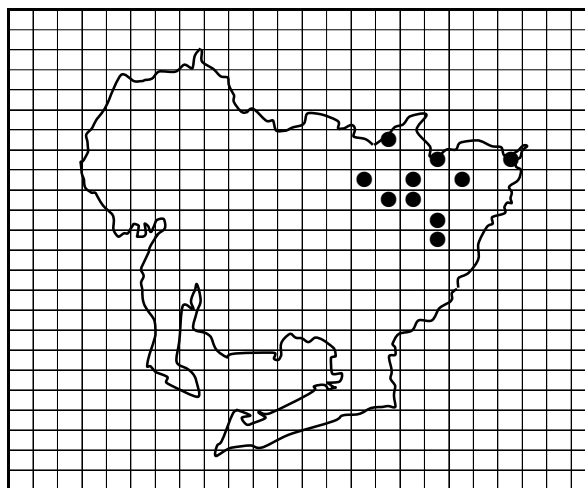
【生息地の環境／生態的特性】

山地の渓流域の水際に生息する。普段は石のすき間に潜んでいる。成体は5月ごろから見られる。主に水生昆虫を捕食する。

【現在の生息状況／減少の要因】

どの生息域においても生息数は単独か数頭と少ない。北設楽郡設楽町裏谷からは、2011年以降記録されていない。生息地の環境悪化や、近年頻繁に繰り返されるゲリラ豪雨も影響していると思われる。

県内分布図



【保全上の留意点】

治水・河川工事の際、生息環境を確保することが肝要である。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. pp.106,237. 偕成社, 東京.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. pp.47,175. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.164. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, p.241. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.323,556. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)

エビチャコモリグモ *Arctosa ebicha* Yaginuma

【選定理由】

県内での主な生息環境は河川敷・湿地・草原等である。どの生息地においても個体数は少ない。近年、相次いで生息地が開発によって消滅し、現在では極めて限られた地域で生息している。

【形態】

体長雌 11～15mm、雄 10～12mm。雌雄とも背甲は濃茶褐色。腹部背面は濃茶褐色で心斑は褐色。全身に黒毛を生じる。4脚とも各節は濃赤褐色で、第1跗節には長毛が2本あり、脛節下面には短い刺が3対ある。

【分布の概要】

【県内の分布】

名古屋市、豊明市、岡崎市、刈谷市、豊田市、安城市、西尾市、碧南市、知立市に分布する。

【国内の分布】

本州、四国、九州に分布する（新海ほか、2018）。

【世界の分布】

日本、韓国、中国に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

主に河川敷や草地等を徘徊するが、草の根元や土の窪みなどに潜んでいることもある。成体は一年中確認される。多くのコモリグモ類の雌は、卵のうを糸器につけて徘徊するが、本種は卵のうを糸器につけはするものの、あまり徘徊はせずに地中に浅い穴を掘って潜んでいることが多い。

【現在の生息状況／減少の要因】

2013～18年の調査では、名古屋市西区（庄内川河川敷）・同市名東区（牧野ヶ池緑地）、岡崎市針崎町（草地）・同市阿知和町（放置田）、豊田市上原町（籠川河川敷）、西尾市上町（矢作川西尾緑地）の6ヶ所で確認しているが、岡崎市では2ヶ所とも土地開発の予定地になっている。豊田市ではバイパス工事で生息地が消滅する恐れがある。生息地の多くは平野部の河川敷や草地で、河川工事や土地開発等の影響を受け易く、個体数が激減すると予測される。

【保全上の留意点】

河川工事や土地開発等による生息域の環境破壊で減少が懸念される。また、農薬や除草剤等の散布にも注意する必要がある。

【特記事項】

大型のコモリグモで、同所に生息している種としてはアライトコモリグモ（*Trochosa ruricola*）が挙げられる。本種は全体に濃茶褐色に対し、アライトコモリグモは背甲の中央に褐色の縦条があり、腹部背面の心斑が淡褐色でより鮮明である。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生、2018. CD 日本のクモ. 自刊.

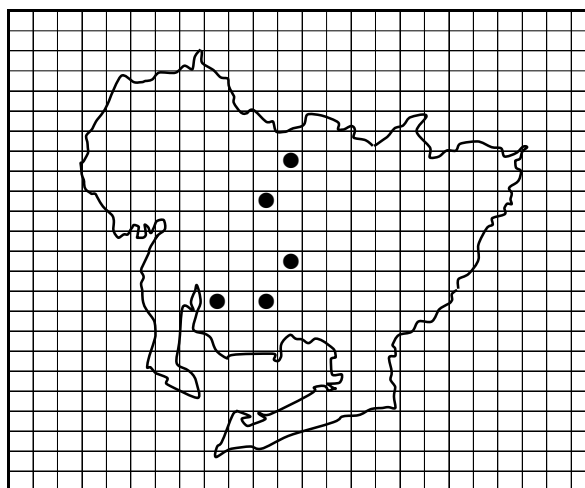
【関連文献】

千国安之輔、1989. 写真日本クモ類大図鑑, pp.27,171. 偕成社, 東京.
八木沼健夫、1986. 原色日本クモ類図鑑, p.158. 保育社, 大阪.
新海栄一、2017. 日本のクモ, p.123. 文一総合出版, 東京.
小野展嗣編著、2009. 日本産クモ類, pp.222,248. 東海大学出版会, 神奈川.
小野展嗣・緒方清人、2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.326,557. 東海大学出版会部, 神奈川.



♀. 岡崎市針崎町, 2014年10月10日, 緒方清人 撮影

県内分布図



(緒方清人)

シッチコモリグモ *Hygrolycosa umidicola* Tanaka

【選定理由】

主な生息環境は湿潤地・ヨシ原などで、県内で生息地は 2 ヶ所であり、個体数は極めて少ない。今後も土地開発等の環境破壊で激減する可能性が高い。

【形態】

体長雌 6～7.7mm、雄 5.7～6.1mm (田中, 2009)。雄背甲は黒褐色。中央は褐色で細い黒褐色の条がある。腹部背面は黒褐色。多数の斑と心斑は褐色で目立つ。全体に黒い印象を受ける。雌の背甲は茶褐色。中央は褐色で細い黒褐色の条がある。腹部背面は褐色で多数の黒褐色の斑がある。雌雄とも 4 脚の各節は褐色で、腿節に黒斑がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋市に分布する。

【国内の分布】

北海道、本州、九州に分布する (新海ほか, 2018)。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

豊橋市大村町では水田地帯に点在するヨシ原に生息している。同市小島町では水田が耕作放棄された後の湿潤地に生息している。幼体で越冬し、成体は 5～8 月にかけて見られる。雌は 5～6 月になると卵のうを糸器に着けた個体が観察される。

【現在の生息状況／減少の要因】

大村町では生息地の葦原が次々と埋め立てられ、宅地や駐車場等になっている。2012～14 年の調査では、残された生息地は極めて限られていて、個体数は非常に少ない。2012～14 年に実施した小島町での調査でも、環境変化は見当たらないが確認された個体は 1～3 頭である。もともと個体数が少ないと思われる。

【保全上の留意点】

現在生息が確認されているのは豊橋市大村町と小島町の 2 ヶ所である。生息環境は葦原や湿潤地だが、極めて生息域は狭い。土地開発は周辺部の環境も残すように保全すべきである。同時に、県内の新産地をさらに明らかにするよう努めることも必要である。

【特記事項】

同所にはコモリグモ類のキクヅキコモリグモ (*Pardosa pseudoannulata*)・イナダハリゲコモリグモ (*P. agraria*)・キバラコモリグモ (*Pirata subpiraticus*) などとも生息するが、体色が雄で黒褐色、雌で茶褐色をしているのは本種だけである。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, p.158. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2017. 日本のクモ, p.139. 文一総合出版, 東京.

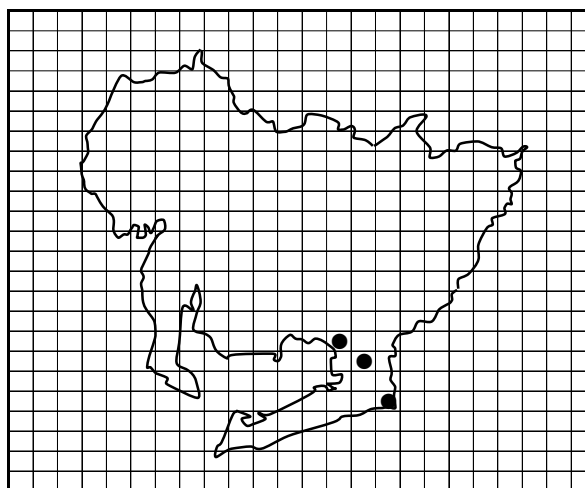
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, p.229. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.329,557. 東海大学出版会部, 神奈川.



♀. 豊橋市大村町, 2012 年 5 月 30 日, 緒方清人 撮影

県内分布図



(緒方清人)

イサゴコモリグモ *Pardosa isago* Tanaka

【選定理由】

県内では、豊川と矢作川の中流域の河川敷に生息するが、生息域はきわめて狭く、且つ個体数も少ない。河川工事等に伴う生息域の開発等で、個体数の減少が心配される。

【形態】

体長 5～7mm。腹部は灰褐色で細長い。背甲には銀灰色の毛が密生している。歩脚には黒褐色の輪紋がある。



岡崎市岡町(乙川), 2006年9月14日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、豊橋市と豊川市（旧豊川市・旧宝飯郡一宮町）にまたがる豊川河川敷、豊田市（旧旭町）矢作川本流、岡崎市乙川（矢作川支流）河川敷に分布する。

国内では、本州、四国、九州に分布する（新海ほか, 2018）。

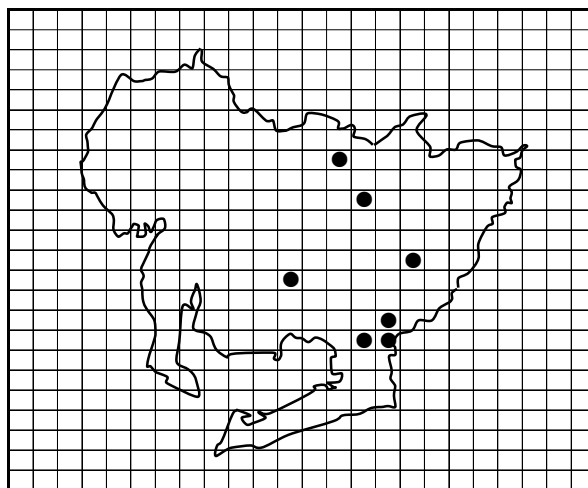
【生息地の環境／生態的特性】

河川敷を生息地とし、拳大の石の間を敏速に徘徊する。5月ごろから成体になり、雌は糸器に卵嚢を付けて徘徊する。

【現在の生息状況／減少の要因】

確認されたすべての地域で、数頭から数十頭と極めて少ない。

県内分布図



【保全上の留意点】

河川の護岸工事による生息地の破壊が問題である。また、生息地では車の河川敷への乗り入れ、釣りやバーベキュー等の娯楽を目的とした立ち入り等は慎むべきである。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. pp.115,246. 偕成社, 東京.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. pp.44,165. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.164. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.245-246. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.336,558. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)

テジロハリゲコモリグモ *Pardosa yamanoi* Tanaka et Suwa

【選定理由】

県内では、もともと採集・観察例の少ない種（希産種）である。湿地のクモで、生息地は数ヶ所と限られている。近年、湿地の開発等に伴い激減している。

【形態】

体長 5～7mm。雄の背甲・腹部は濃茶褐色で、眼域から腹部後方にかけて乳白色の縦斑がある。第1脚の全節に多数に白毛を生じる。雌は第1脚の白毛を欠き茶褐色。背甲・腹部は茶褐色で、眼域から腹部後方にかけて淡褐色の縦斑があり、腹部上面に白斑がある（H.Tanaka & M. Suwa, 1986）。



新城市(旧作手村)長ノ山湿原, 2008年5月25日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

名古屋市、豊川市、岡崎市、新城市（旧鳳来町・旧作手村）に分布する。

国内では、本州、四国、九州に分布する（新海ほか, 2018）。

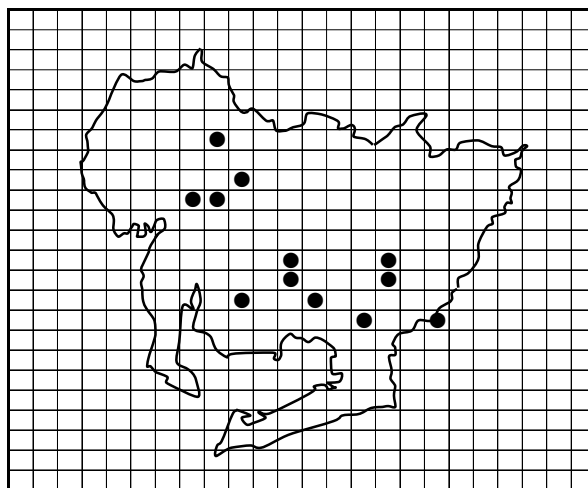
【生息地の環境／生態的特性】

湿原に生息し地表を徘徊する。初夏に成体になり、雌は卵嚢を糸器に付けて徘徊する。

【現在の生息状況／減少の要因】

2008年6月に調査した名古屋市天白区（天白溪湿地）では、湿地の消滅と同時に絶滅したと思われる。現在、新城市（旧作手村）長ノ山湿原は貴重な生息地のひとつである。

県内分布図



【保全上の留意点】

湿原の埋め立てや開発は極力避けるべきである。

【引用文献】

H. Tanaka & M. suwa, 1986. Descriptions of Tereee New Spiders of the Pardosa Laura Complex (Araneae: Lycosidae) Based on Their Morphology and Ecology, *Acta arachnol.*, 34: 49-60.

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.164. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, p.241. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.337,558-560. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)

カトウツケオグモ *Phrynarachne katoi* Tikuni

【選定理由】

観察例や採集記録は散発的である。全国的にも採集記録は少ない。

【形態】

体長雌 7～9mm、雄 2～3mm。
一見鳥の糞に似る。腹部には大小の突起が多数あり、それぞれの頂点には 1 本の毛を生じる。
第 1・2 歩脚の転節、腿節、膝節の半分ほどまでは白色、その先から蹠節、ふ節は黒色で非常に目立つ。



瀬戸市海上町(海上の森), 2008 年 6 月 12 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

犬山市八曾、瀬戸市海上町、豊田市猿投町・勘八町・琴平町・広幡町・京ヶ峰、新城市日吉、北設楽郡東栄町で確認された。

国内では、本州、四国、九州、南西諸島に分布する（新海ほか, 2018）。

【生息地の環境／生態的特性】

里山や山地の木本や草本の葉上に静止し、獲物を待ち伏せる。昆虫類が近づくと、第 1 脚を小刻みに動かして捕らえる。本種が飛んできたハエを捕えて食べていると、別のハエが後ろから近づき、腹部の突起を舐めているような行動をしていた（杉山・大原, 2003）。

【現在の生息状況／減少の要因】

もともと個体数は極めて少ないものと思われる。生息状況は不明の点が多い。

【保全上の留意点】

確認された生息地での環境保全。殺虫剤や除草剤の使用も慎むべきである。

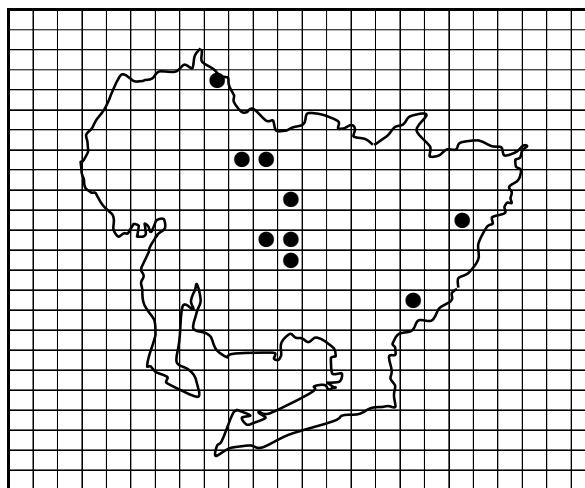
【引用文献】

杉山時雄・大原満枝, 2003. カトウツケオグモの捕食行動の観察. 蜘蛛, 36: 7-9. 中部蜘蛛懇談会.
新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. pp.140,267. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.210. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.250. 文一総合出版, 東京.
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.504,634. 東海大学出版会, 神奈川.
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.359,565. 東海大学出版会部, 神奈川.

県内分布図



(緒方清人)

アワセグモ *Selenops bursarius* Karsch

【選定理由】

採集・観察例の少ない種である。主に、社寺林のスギ・ヒノキの樹幹に棲むが、確認されている生息地は岡崎市・豊田市と豊川市だけである。古木の伐採による個体数の減少が心配される。

【形態】

体長 9～13mm で扁平。体色は茶褐色で、不明瞭な矢がある。歩脚は褐色で黒色の輪紋がある。



豊田市猿投町(猿投神社), 2007年5月20日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

岡崎市、豊田市、豊川市から記録されている。

国内では本州、四国、九州に分布する（新海ほか, 2018）。

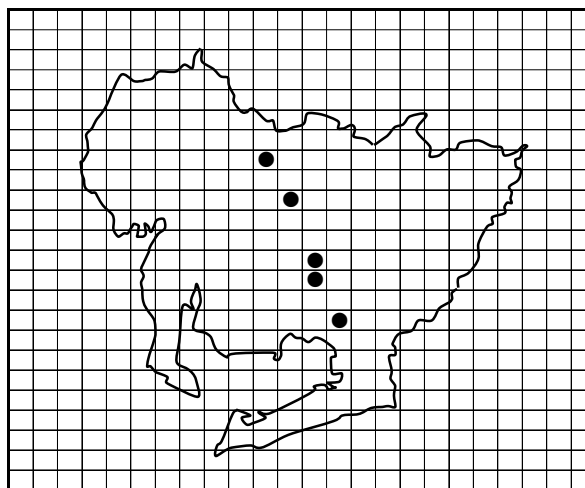
【生息地の環境／生態的特性】

確認された3市5地点とも、社寺林のスギの古木に生息している。昼間は樹皮のすき間に潜んでいるが、夜間は徘徊する。

【現在の生息状況／減少の要因】

豊田市の猿投神社の境内では生息密度は高いが、岡崎市と豊川市ではスギの古木が数本しかなく、個体数は非常に少ない。

県内分布図



【保全上の留意点】

社寺林の古木を残すこと。生息地での殺虫剤の散布に際しては、十分な配慮が必要である。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.52,196. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.163. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.552,629. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.403,581. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)

ワスレナグモ *Calommata signata* Karsch

【選定理由】

地中に巣穴を作り、その中に潜む。市街地の民家周辺、神社仏閣、公園、農耕地などに生息していたが、環境破壊等により急速な減少傾向にある。

【形態】

体長雌 15～18mm、雄 6～8mm。雌は全体に褐色で、顎が太く、牙も約 5mm ある。雄は全体に黒色で、4脚が細く、別種のように見える。



日進市箕ノ手, 2012年9月29日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

名古屋市、北名古屋市、日進市、豊明市、岡崎市、豊田市、刈谷市、知立市、安城市などで記録されている。

国内では、本州、四国、九州に分布する(新海ほか, 2018)。

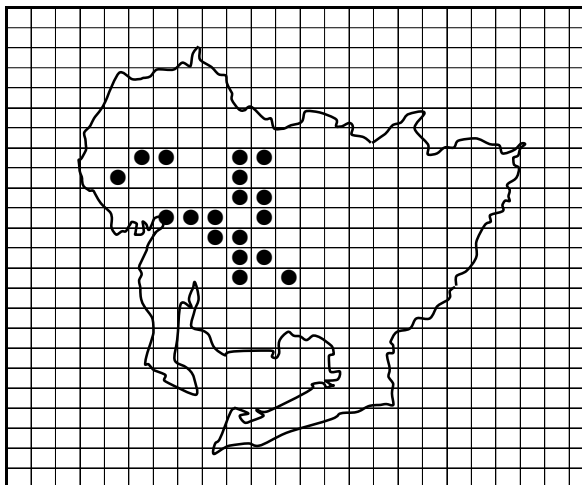
【生息地の環境／生態的特性】

植木の根本、芝生、農耕地など地中に巣穴を掘り、内部を糸で綴った管状の住居を作る。トタテグモ類のように出入口に扉は付けないが、糸で塞ぐこともある。巣穴の入り口付近で等脚類や昆虫などの獲物を待ち伏せる。

【現在の生息状況／減少の要因】

市街地に広く分布するが、巣穴は発見しにくい。土地開発の影響を受けやすく、生息地が急速に消失している。除草剤や農薬の影響も考えられる。

県内分布図



【保全上の留意点】

土木建築による破壊を防ぐことは難しいが、少なくとも除草剤などの使用に際しては、十分な配慮が必要である。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. pp.20,164. 偕成社, 東京.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.3. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.25. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.86,597. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.31,481. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)

カネコッタテグモ *Antrodiaetus roretzi* (L. Koch)

【選定理由】

本種を含む地中性のクモは、崖地（法面）などの改修によるコンクリート化や人為的な土地の攪乱・崩壊によって生活場所を失うことが多い。そのため、都会の周辺では激減している。山地等ではまだ比較的多く見られるが、将来的には心配があり絶滅危惧種と評価された。

【形態】

体長雌 12～18mm、雄 9～13mm。背甲の中窩は縦向き。上顎の牙は上下に可動。胸板は長さと同幅がほぼ同じ、有毛だが前方に無毛の部分がある。



北設楽郡設楽町裏谷, 2007年5月11日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

海拔 1m の海岸近くから 1,200m（茶臼山）まで、県内全域に分布する（須賀, 1989）。環境省リストの準絶滅危惧種であるが、県内ではキシノウエトタテグモよりも分布範囲が広い。

国内では、本州に分布する（新海ほか, 2018）。

【生息地の環境／生態的特性】

崖地に約 20cm の横穴を掘り、入り口に両開きの扉を付け、その中で生活する。扉には周りのコケや土を付けてカムフラージュしている。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内に広く分布するが、記録は散発的である。道路拡張工事や住宅開発などで、生活場所が失われ減少傾向にある。

【保全上の留意点】

崖地を工事する際は、十分な配慮が必要である。

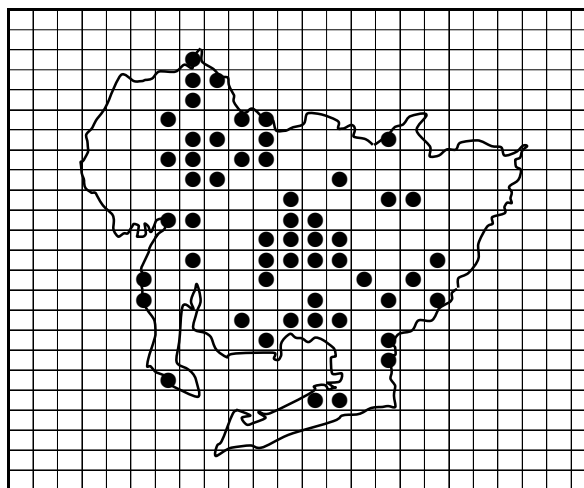
【引用文献】

須賀瑛文, 1989. 愛知県・三重県・静岡県におけるトタテグモ類三種について. 蜘蛛, 22: 10-11. 中部蜘蛛懇談会.
新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. pp.18,162. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.2. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.24. 文一総合出版, 東京.
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.86,597. 東海大学出版会, 神奈川.
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.31,481. 東海大学出版会部, 神奈川.

県内分布図



(緒方清人)

キノボリトタテグモ *Conothele fragaria* (Dönitz)

【選定理由】

県内各所に棲んでいるが、どの地域においても個体数は少なく減少傾向にある。古木や崖地の表面などに住居を作るので、工事などによる環境破壊の影響を受けやすい。

【形態】

体長雌 10～11mm、雄 6～8mm。背面の中窩は横向きで前曲する。第3脚脛節背面に窪みがある。



岡崎市茅原沢, 2007年9月9日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

低地から海拔 720m まで広く分布する (須賀, 1989)。各生息地とも個体数は少ない。

国内では、本州、四国、九州、南西諸島に分布する (新海ほか, 2018)。

【生息地の環境／生態的特性】

樹皮上、石垣、崖地などの表面に袋状の住居を作る。住居の長さは約 3cm で出入口に円形の扉を付ける。扉の近くにきた多足類や昆虫類などの獲物を捕らえて、住居内に引きずり込む。住居の表面にはコケ・樹皮・土などを付着させるので見つけにくい。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内広く分布するが、多くは単独で記録される。生息に適した古木や崖地が、伐採や土地開発などで失われている。

【保全上の留意点】

生息地での開発は慎むべきである。

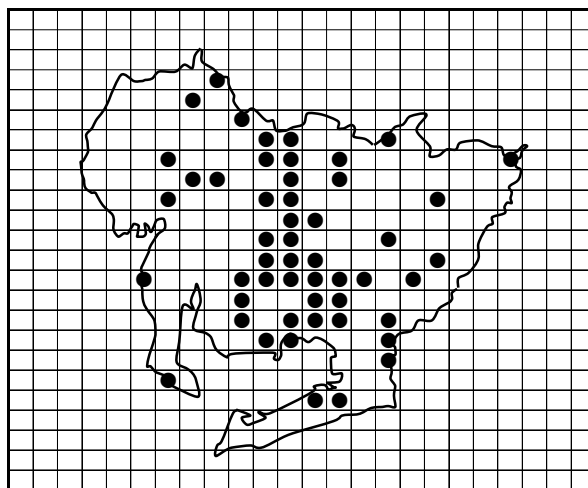
【引用文献】

須賀瑛文, 1989. 愛知県・三重県・静岡県におけるトタテグモ類三種について. 蜘蛛, 22: 10-11. 中部蜘蛛懇談会.
新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.19,163. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.4. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.23. 文一総合出版, 東京.
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.91,598. 東海大学出版会, 神奈川.
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.34,483. 東海大学出版会部, 神奈川.

県内分布図



(緒方清人)

キシノウエトタテグモ *Latouchia swinhoei typica* (Kishida)

【選定理由】

カネコトタテグモ同様地中性のクモで、都市周辺の神社、仏閣、城、人家付近の地中に棲むため、カネコトタテグモ同様に環境が破壊され、激減または絶滅の恐れが大である。また、本種にはクモタケが寄生することが多く、その犠牲になる数も多い。

【形態】

体長雌 10～15mm、雄 9～12mm。背甲の中窩は横向き。頭胸部には疎らな毛がある。胸板にくぼみがある。腹部は茶褐色で背面に赤褐色または黒褐色の横縞がある。



日進市赤池町, 2011 年 11 月 10 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

犬山市、名古屋市（昭和区・千種区・瑞穂区・中区・熱田区）、瀬戸市、東海市、岡崎市、豊田市、安城市、豊橋市などで確認しているが、局所的である。

国内では、本州、四国、九州に分布する（新海ほか, 2018）。

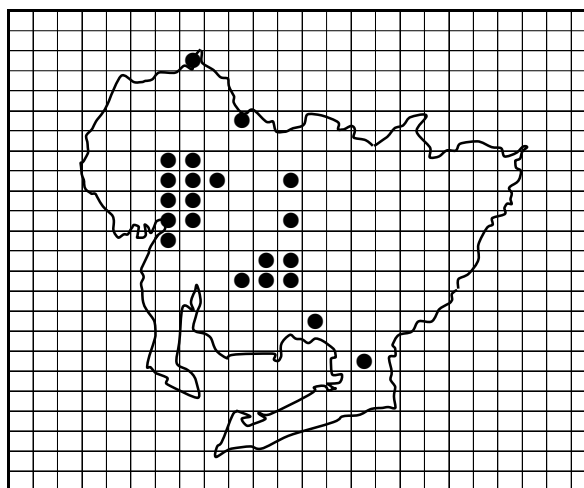
【生息地の環境／生態的特性】

崖地や古い石垣の隙間等に、深さ 20cm 前後の穴を掘り、その中に潜む。入り口に円形の扉を付け、普段は閉じている。扉の表面に土を付けるので見つけにくい。主に都市や市街地に分布するが、豊田市の王滝溪谷と県緑化センターからも確認されている。これらは、工事の際に植木や石材などの物資に紛れ込んだ等、人為的分布と思われる。

【現在の生息状況／減少の要因】

名古屋市の場合、人家の庭でも生息していたが、近年は宅地の工事等の影響で記録されていない。八事興正寺境内、岡崎市岡崎城公園、同市東公園等では、生息数が減少傾向にある。主な要因は崖地の工事や歩道整備等が考えられる。時にはクモタケも生えるが、被害はよく分っていない。

県内分布図



【保全上の留意点】

生息区域での崖地、石垣等の工事では十分な配慮が必要である。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑, pp.19,163. 偕成社, 東京.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, p.3. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2017. 日本のクモ増補改訂版, p.82. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.91,598. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.35,485. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)

ニシキオニグモ *Araneus variegatus* Yaginuma

【選定理由】

県内での記録は 10 例ほどしかなく、どれも単独個体である。開発等の影響で生息域の縮小、個体数の減少が心配される。

【形態】

大型のオニグモで体長雌 12～16mm、雄 9～12mm。腹部上面は黄褐色と黒褐色の複雑な模様がある。腹部中央には黄褐色の縦斑がある。腹部下面は黒色で、外雌器と糸器の間に大きな橙色の斑がある。



豊田市稲武町(面ノ木園地), 2011 年 10 月 9 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

岡崎市、豊田市(旧豊田市・旧稲武町)、西尾市、豊川市(旧一宮町)、田原市(旧渥美町)、北設楽郡設楽町で記録されている。

国内では、北海道、本州、九州に分布する(新海ほか, 2018)。

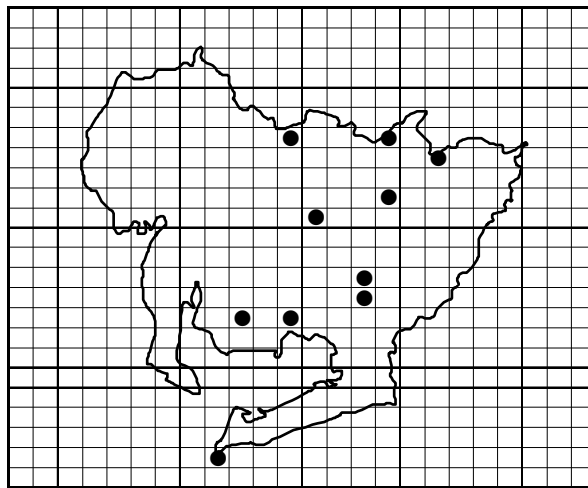
【生息地の環境／生態的特性】

海岸林から山林にいたるまで記録されているが、林縁部や神社仏閣の境内などの樹間や建物などに円網を張る。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内での記録は少なく、散発的で多くは単独個体である。最も新しい記録としては、2019 年 10 月に西尾市平原町で雌幼体が確認された。個体数やその減少率は不明である。

県内分布図



【保全上の留意点】

県内では山林から海岸林にまで散発的に記録される。生息地での伐採や開発は慎むべきである。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.66,205. 偕成社, 東京.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.23,100. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.23. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.455,627. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.138,509-510. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)

トゲグモ *Gasteracantha kuhli* C. L. Koch

【選定理由】

県内に広く分布するが、散発的にしか記録されていない。また個体数も単独か数個体と少ない。

【形態】

体長雌 7～8mm、雄 3～4mm
腹部はキチン化していて硬く、白色と黒色の斑紋がある。側面に 3 対の黒色の棘がある。雄は腹部の模様は雌に似ているが、鋭い刺はない。



豊田市(旧足助町)桑田和町, 2006 年 10 月 22 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

豊田市(旧旭町・旧足助町・旧稲武町)、北設楽郡設楽町、新城市(旧新城市・旧鳳来町)、豊橋市などから記録された。名古屋市でも 2014 年 7 月 22 日に昭和区興正寺境内で雌 3 頭が記録された(柴田私信)。

国内では、本州、四国、九州、南西諸島に分布する(新海ほか, 2018)。

【生息地の環境／生態的特性】

山地の樹間に垂直円網を張る。

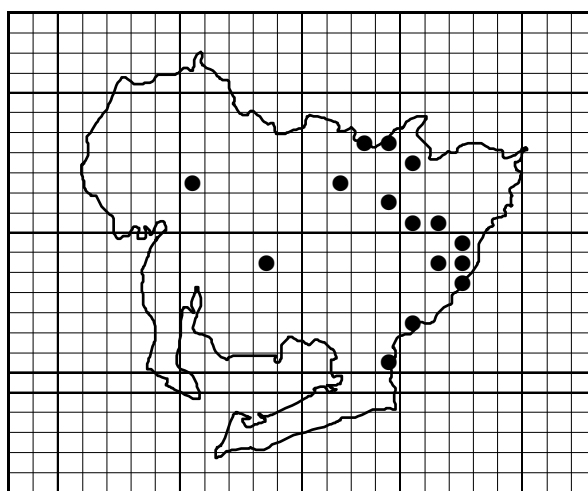
【現在の生息状況／減少の要因】

観察例や採集例は少なく、散発的に発見される程度である。減少の要因は不明。

【保全上の留意点】

生息地での樹林帯の保全が最も望まれる。

県内分布図



【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.83,217. 偕成社, 東京.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.111. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.228. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.42,624. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.173,515. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)

ツシマトリノフンダマシ *Paraplectana tsushimensis* Yamaguchi

【選定理由】

県内では、雌のみが記録されているだけである。稀産種で全国的に見ても発見例の少ないクモである。

【形態】

体長雌 6～7mm、雄 2～3mm。
腹部は赤色で中央に 4 個、周辺部に 8 個の黒色円紋がある。一見、ナナホシテントウに似る。名前のツシマは最初の発見地の対馬による。



豊田市琴平町, 2019 年 6 月 12 日, 川田奈穂子 撮影

【分布の概要】

南方系のクモ。県内では犬山市栗栖、常滑市大曾町、岡崎市小呂町、豊田市琴平町、豊川市音羽町、新城市門谷で確認されているが、どの地域でも単独個体である。雄は未発見である。

国内では、本州、四国、九州、南西諸島に分布する(新海ほか, 2018)。

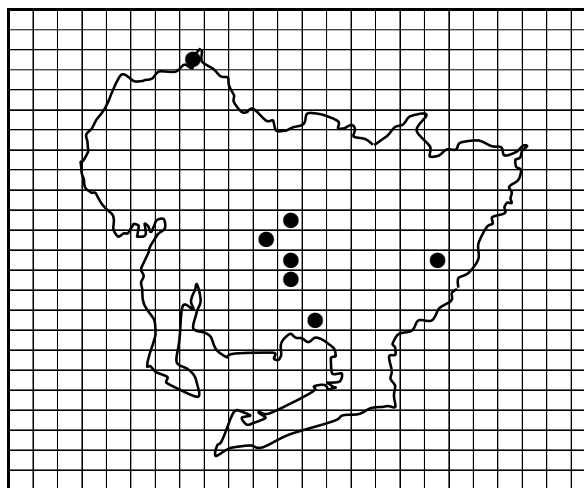
【生息地の環境／生態的特性】

おもに市街地の公園から低山に生息する。夜行性で、枝葉間に同心円水平円網を張る。日中は広葉樹や笹など葉の表や裏に静止する。

【現在の生息状況／減少の要因】

もともと個体数の少ない種で、稀に発見される程度である。減少の要因は不明である。

県内分布図



【保全上の留意点】

生息地での開発や樹木の伐採は慎むべきである。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. pp.83,217. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. pp.28,111. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.164. 文一総合出版, 東京.
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.428,623. 東海大学出版会, 神奈川.
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.189,518. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)

カコウコモリグモ *Pardasa nojimai* Tanaka

【選定理由】

内湾に面した河口付近の塩性ヨシ原のみ生息し、県内での生息地は極めて限られる。護岸工事・埋め立て・環境の悪化等によって減少の恐れが強い。

【形態】

体長雌雄 5～7mm。雄の背甲は一様に黒色。雌は黒褐色で中窩は茶褐色。雌雄とも腹部背面は茶褐色で、黒褐色と白色斑が複数ある。歩脚は褐色で各節に長い刺を有する (Tanaka, 1998)。

【分布の概要】

【県内の分布】

名古屋市・豊橋市・田原市・刈谷市で確認された。

【国内の分布】

岡山県岡山市の標本を模式とし記載された (Tanaka, 1998)。現在は千葉県・東京都・静岡県・三重県・大阪府・兵庫県・島根県・熊本県で記録されている (新海ほか, 2018)。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

海岸や河口付近の塩性ヨシ原に限って棲む。同じヨシ原でも海岸以外には生息していない。成体は 5～8 月にかけて見られ、ヨシ原内を素早く動き回る。6～8 月頃には、雌は卵のうを糸器に着けた個体や、子グモを背負う個体が観察される。同じ環境にはクロベンケイガニやベンケイガニなどカニ類も多数生息している。

【現在の生息状況／減少の要因】

2012～16 年の調査では、名古屋市港区稲永 (庄内川河口)、豊橋市杉山町 (紙田川河口)、田原市谷熊町 (田原湾) で確認された。近年、刈谷市境川河口では確認されていない。護岸工事や埋め立てなどによる生息地の環境悪化が主な減少要因と考えられる。

【保全上の留意点】

名古屋市港区稲永 (庄内川河口) では護岸補強工事により、ヨシ原の面積が狭くなり環境悪化が進み、個体数が激減している。塩性ヨシ原を保全すると同時に、環境美化に努める必要がある。

【引用文献】

Tanaka, H., 1998. A New Species of the Genus *Pardosa* (Araneae: Lycosidae) from Japan. *Acta arachnol.*, 47(2): 101-103.
新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊。

【関連文献】

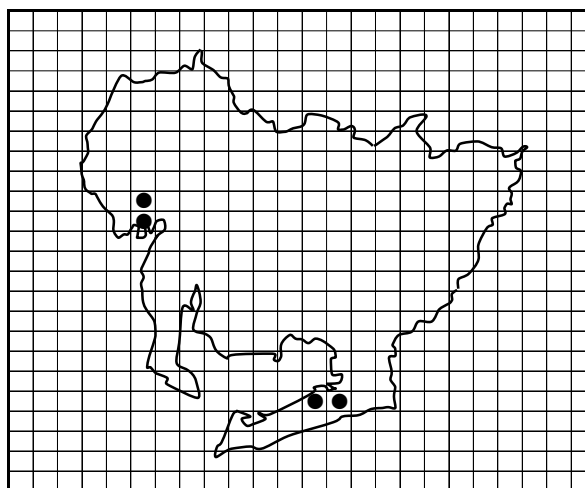
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.222,248. 東海大学出版会, 神奈川。
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.245-246. 東海大学出版会部, 神奈川。

(緒方清人)



♀. 豊橋市杉山町 (紙田川河口), 2013 年 6 月 3 日, 緒方清人 撮影

県内分布図



アシナガカニグモ *Heriaeus mellottei* Simon

【選定理由】

山地から記録されているが、
個体数は少なく局地的である。
道路工事や開発等にもなう生
息域の縮小、個体数の減少が心
配される。

【形 態】

体長雌 6～7mm、雄 5～6mm。
全体に黄緑色で、頭胸部・腹部・
歩脚は多数の長く太い毛でおお
われている。



豊田市西広瀬町, 2008年5月24日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

小牧市、岡崎市、豊田市（旧豊田市・旧足
助町）、新城市（旧新城市・旧風来町）等に分
布する。

国内では本州、四国、九州に分布する（新
海ほか, 2018）。

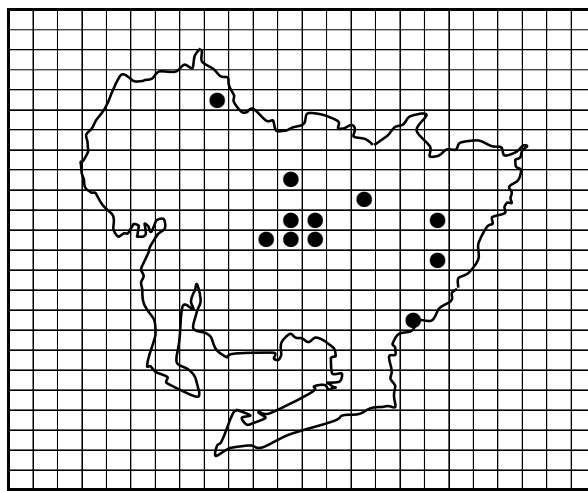
【生息地の環境／生態的特性】

山地の草原に生息し、葉上に静止し目前に
近づいた小昆虫を捕食する。

【現在の生息状況／減少の要因】

主に、山間部の草原を生息域としている。
豊田市加茂町では2004年5～6月にかけて最大
40頭近い個体が記録されたが、このような事
は稀で、普段は数頭である。6月下旬ごろに
雌が卵のうを保護しているのが観察されるが、
生態などは不明な点が多い。

県内分布図



【保全上の留意点】

生息地での道路工事や宅地等の開発は極力避け、除草剤・農薬等の散布に際しては、十分な配慮
が必要である。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.139,267. 偕成社, 東京.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.55,208. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.163. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.525,636. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.353,563. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)

オビボソカニグモ *Xysticus trizonatus* Ono

【選定理由】

樹皮のすき間から単独個体が散発的に記録される。もともと個体数は少ないと思われる。生息木の伐採による減少が心配される。

【形態】

体長雌 7～8mm、雄 5～6mm。
雌の頭胸部は淡褐色で、両側に黒色の縦斑がある。雄は一様に黒色。腹部は茶褐色で、数本の横縞と多数の白色斑がある。
Xysticus 属ではこのような模様は本種だけである。



岡崎市池金町, 2017年5月13日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

名古屋市、岡崎市（旧岡崎市・旧額田町）・豊田市（旧足助町・旧下山村）、安城市、西尾市（旧一色町）、北設楽郡豊根村、北設楽郡設楽町で記録されている。

国内では、北海道、本州、四国、九州に分布する（新海ほか, 2018）。

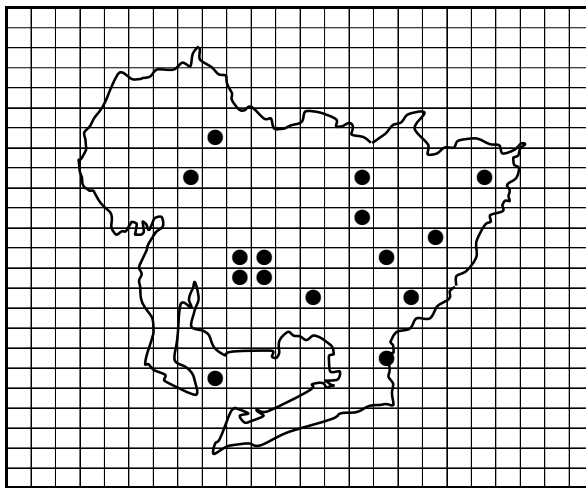
【生息地の環境／生態的特性】

徘徊性で樹幹の隙間や、地表の落葉中に生息する。松のコモ巻きからも発見される（緒方, 2005）。

【現在の生息状況／減少の要因】

もともと個体数は少ない。松のコモ巻きからも、越冬個体が稀に発見される。

県内分布図



【保全上の留意点】

生息木の伐採は中止すべきである。コモ巻きは越冬する害虫退治を目的とするものだが、害虫駆除に一役買っているクモ類も越冬している。焼却される前に、害虫と益虫を選り分けることが望まれる。

【引用文献】

緒方清人, 2005. 3 松のコモ巻きに観られるクモ類の比較から. 新編安城市史 11 自然 本文編 動物, pp.591-595. 安城市.
新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.163. 文一総合出版, 東京.
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.515,635. 東海大学出版会, 神奈川.
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.373,568. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)

コガネグモ *Argiope amoena* L. Koch

【選定理由】

草木類の間に円網を張る。全国的に見ても最も普通のクモであったが、近年、都会を中心に減少傾向にある。生息環境の草原の減少が主な要因である。現在でも、生息場所によっては個体数の多いところもあるが、今のうちに歯止めをかける必要があり準絶滅危惧と評価された。

【形態】

体長雌 20～25mm、雄 5～6mm。腹部の黒と黄色の横縞が特徴である。



常滑市常滑字菅場, 2008年6月28日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内に広く分布する。良好な環境があれば多産するが、都会では急速に減少している。

国内では、本州、四国、九州、南西諸島に分布する（新海ほか, 2018）。

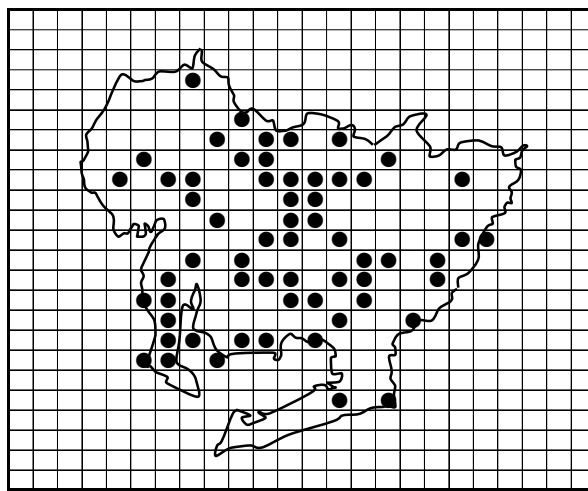
【生息地の環境／生態的特性】

草木類の間に垂直円網を張り、X字状の糸（かくれ帯）を付け、その中央に止まる。一般に、日当たりのよいところに多い。網の近くに不規則に糸を引き、淡緑色の卵のうを吊す。

【現在の生息状況／減少の要因】

生息できる環境の減少が主な要因である。現在でも、多産する場所もあるが、ほとんどの生息地では個体数が減少している。

県内分布図



【保全上の留意点】

草地を残すなどの配慮が必要である。農薬・除草剤の使用は、クモおよびクモの餌となる小動物生息のために極力避けたい。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.79,213. 偕成社, 東京.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.113. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.212. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.425,622. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.146,501-502. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)

オオトリノフンダマシ *Cyrtarachne akirai* Tanikawa

【選定理由】

県内では広く分布するが、生育地の減少に伴い、個体数も減少傾向にある。

【形態】

体長雌 12～13mm、雄 2～2.5mm。頭胸部は褐色。腹部は淡黄色で、長さと同幅、前方両肩は円く隆起して周縁に白い環がある。



犬山市, 2005 年 7 月 24 日, 須賀瑛文 撮影

【分布の概要】

県内には広く分布する。
国内では、本州、四国、九州、南西諸島に分布する（新海ほか, 2018）。

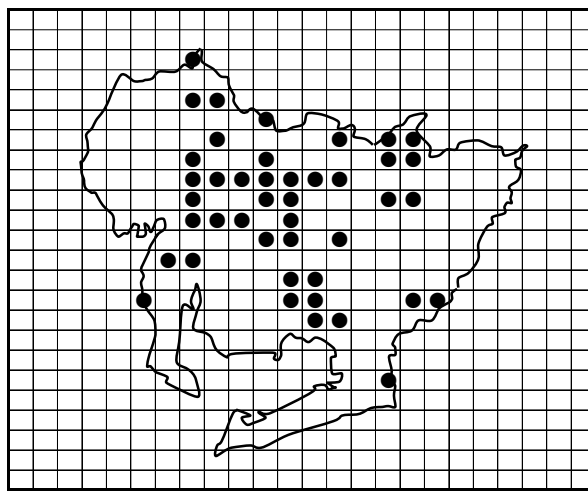
【生息地の環境／生態的特性】

山間部の道沿い、ススキや広葉樹の葉裏に脚を縮めて止まっている。夜になると、大型の同心円状垂直円網を張り、主として蛾の仲間を捕らえる。

【現在の生息状況／減少の要因】

開発等により生息場所が失われることが大きな要因である。ほかに、農薬の影響も考えられる。

県内分布図



【保全上の留意点】

開発の際、ススキ野原や疎林を残し生息環境を確保すること。また、農薬等の散布には十分注意すべきである。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.82,216. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.109. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.228. 文一総合出版, 東京.
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.427,623. 東海大学出版会, 神奈川.
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.166,514. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)

トリノフンダマシ *Cyrtarachne bufo* (Bösenberg et Strand)

【選定理由】

県内に広く分布するが、近年は生息適地が減少し、個体数も減少傾向にある。

【形態】

体長雌 8～12mm、雄 2mm。
雌の腹部前方は灰褐色、後方は黄白色。前方両肩は灰褐色で隆起し、その周辺は白い線で囲まれる。雄の腹部先方は褐色で後方は黄褐色。



常滑市常滑字菅場, 2007 年 10 月 5 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内に広く分布する。
国内では、本州、四国、九州に分布する（新海ほか, 2018）。

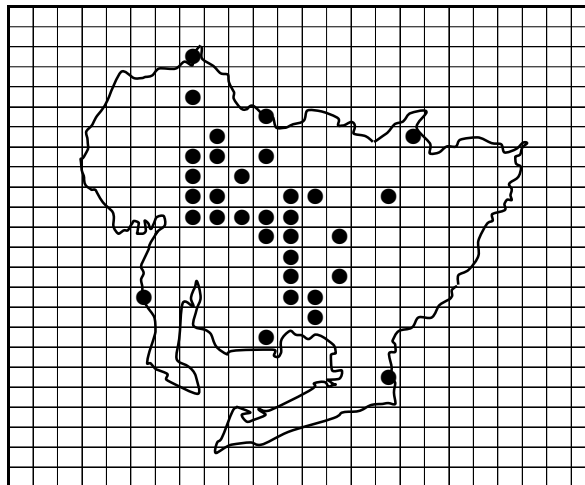
【生息地の環境／生態的特性】

日中は山道や林縁のススキ・広葉樹の葉の裏に静止している。その様子は「鳥の糞」のように見える。夜間に、ほぼ同心円状の垂直円網を張り、主に蛾の仲間を捕らえる。

【現在の生息状況／減少の要因】

開発に伴う生息適地の消滅で、減少傾向にある。

県内分布図



【保全上の留意点】

開発などの際、生息に適した林地・草原を残すなどの配慮が必要である。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.82,215. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.3. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.162. 文一総合出版, 東京.
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.427,623. 東海大学出版会, 神奈川.
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.167,514. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)

シロオビトリノフンダマシ *Cyrtarachne nagasakiensis* Strand

【選定理由】

県内に広く分布するが、どの地域においても単独か数個体と少ない。おもに山間部の草地に生息するが、近年の開発等による減少が心配される。

【形態】

体長雌 6～8mm、雄 1.5mm。
頭胸部は赤褐色、腹部背面の地色は茶褐色で、横に黄白色～白色の帯がある。後方は淡黄色となるが、色彩は個体によって変異がある。



岡崎市八ツ木町(おかざき自然体験の森), 2005年8月2日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

都市公園から山地にいたるまで、広く分布する。

国内では、本州、四国、九州、南西諸島に分布する(新海ほか, 2018)。

【生息地の環境／生態的特性】

日中はイネ科植物の葉裏に脚を縮めて止まっている。夜行性で草間に同心円状の水平円網を張り活動する。

【現在の生息状況／減少の要因】

広範囲に分布するが、いずれの産地でも単独か数頭と少ない。開発などで生息環境が失われている。

【保全上の留意点】

開発時、ススキの草地を残すなどの配慮が必要である。

【特記事項】

従来、クロトリノフンダマシと呼ばれていたものは本種の色彩変異である(A.Tanikawa, 2001)。

【引用文献】

Akio Tanikawa, 2001. Tow new synonymies of the spider genus *Cyrtarachne* (Araneae:Araneidae). *Acta arachnol.*, 50(1): 87-89.

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. pp.82,216. 偕成社, 東京.

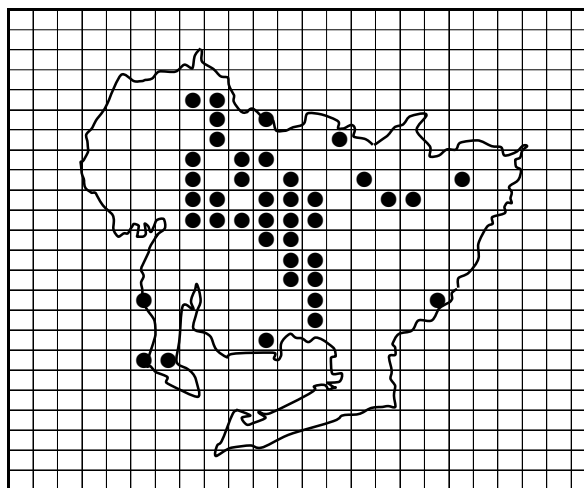
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.110. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.163. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.428,623. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.168,514. 東海大学出版会部, 神奈川.

県内分布図



(緒方清人)

アカイトトリノフンダマシ *Cyrtarachne yunoharuensis* Strand

【選定理由】

県内では、もともと個体数が少ない種であることに加え、土地開発等に伴う林縁部の笹原や草原等の生息適地の消滅も減少に拍車をかけている。

【形態】

体長雌 5～7mm、雄 1.5mm。背甲は濃赤褐色。腹部は赤色地に白斑が目立つ。その最広部の左右に1対の黒点がある。また、腹部背面が黒色の個体（黒色型）、黒色で後方部が暗赤色の個体（ソメワケ型）など色彩変異が見られる。



豊田市(旧藤岡町)上川口町, 2008年8月9日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

里山から山地に広く分布する。いずれの産地でも単独か数個体と少ない。

国内では、本州、四国、九州に分布する（新海ほか, 2018）。

【生息地の環境／生態的特性】

林縁部の笹原やススキの草原を好み、日中はそれらの葉裏に静止している。夕方から活動を始め、同心円状の水平円網を張り、主として蛾の仲間を捕らえる。

【現在の生息状況／減少の要因】

もともと個体数の少ない種である。生息環境の開発で減少傾向にある。

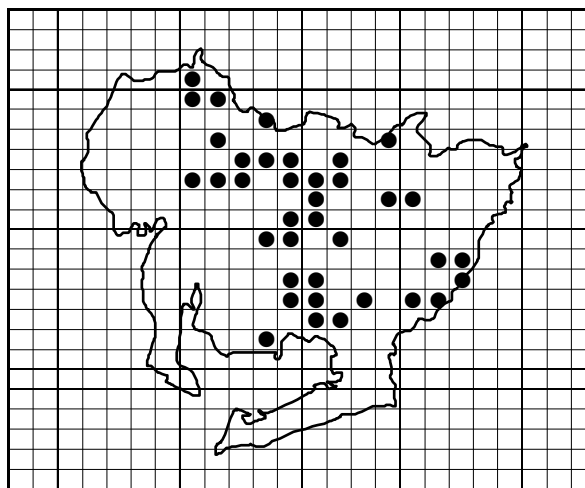
【保全上の留意点】

開発に際しては、生息場所を残すこと。また、管理地などでの除草剤や農薬などの散布も慎むべきである。

【特記事項】

従来ソメワケトリノフンダマシと呼ばれていたものは、本種の色彩変異である（A.Tanikawa, 2001）。

県内分布図



【引用文献】

Akio Tanikawa, 2001. Two new synonymies of the spider genus *Cyrtarachne* (Araneae:Araneidae). *Acta arachnol.*, 50(1): 87-89.

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.82,216. 偕成社, 東京.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.110. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.163. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.428,623. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.169,514. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)

ゲホウグモ *Polys illepidus* C. L. Koch

【選定理由】

県内では低山、総木林、公園など広く分布するが、極めて局地的で個体数も少ない。

【形態】

体長雌 12～18mm、雄 2～3mm。背甲は赤褐色、腹部背面は黒色で両肩に1個ずつの大きな隆起があり、ほかに多くの小突起がある。腹部の形態は個体により変異が大きい。



豊田市琴平町(トヨタの森), 2008年7月24日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

名古屋市、豊明市、常滑市、知多郡武豊町、岡崎市、豊田市、知立市、豊川市(旧音羽町)、新城市、豊橋市などから記録されている。都市公園やその付近の住宅の庭からも発見される。分布的にみて不明な点が多い。

国内では、本州、四国、九州、南西諸島に分布する(新海ほか, 2018)。

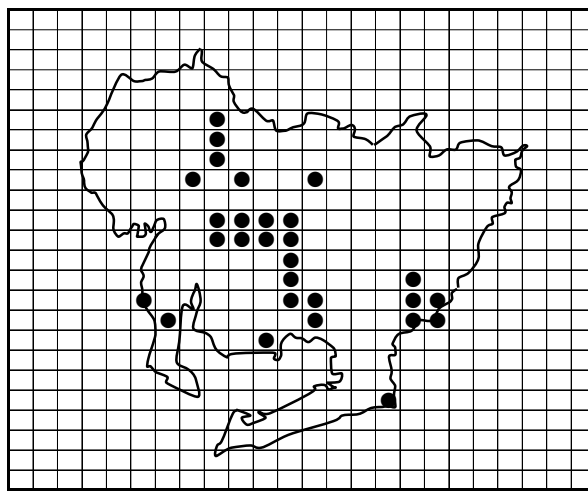
【生息地の環境／生態的特性】

日中は脚を縮めて、枝や樹幹などの先端に止まって擬態する。夜間は樹間に目の細かな円網を張る。

【現在の生息状況／減少の要因】

都市公園からも散発的に確認されているが、県内全般から見ると生息地は局地的で、生息状況は不明な点が多い。

県内分布図



【保全上の留意点】

生息地での伐採は慎むべきである。都市公園では殺虫剤、除草剤の散布には十分注意すべきである。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.81,215. 偕成社, 東京.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.117. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.226. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.461,628. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.194,519. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)

ミナミコモリグモ *Piratula meridionalis* (Tanaka)

【選定理由】

おもに湿地、湿潤地、池沼の水際に生息する。開発等で生息域が縮小し、個体数の減少が心配される。

【形態】

体長 4～6mm。頭胸部は褐色で背甲に Y 字型の斑がある。腹部は濃茶褐色で白点が散在する。



豊田市(旧藤岡町)飯野町, 2008 年 5 月 29 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

名古屋市、日進市、弥富市、東海市、岡崎市(旧岡崎市)、豊田市(旧豊田市・旧藤岡町・旧下山村)、知立市、豊橋市、豊川市・新城市(旧鳳来町)などから記録されている。

国内では本州、四国、九州、南西諸島に分布する(新海ほか, 2018)。

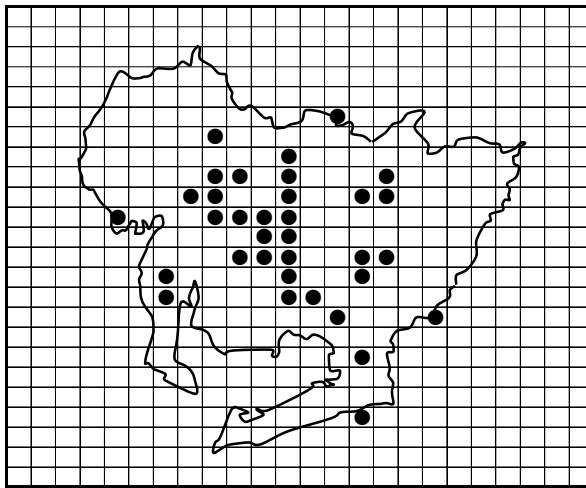
【生息地の環境／生態的特性】

主に、湿原や湿った草地に生息し、地表を徘徊する。初夏に成体になる。雌は卵嚢を糸器に付けて徘徊する。

【現在の生息状況／減少の要因】

開発等による湿原や湿潤地などの生息地の消滅で個体数は減少している。

県内分布図



【保全上の留意点】

宅地や道路工事等による開発の際、生息地を残すことが肝要である。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.114,244. 偕成社, 東京.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.169. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.23. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.225,608. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.342,560. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)

オビジガバチグモ *Castianeira shaxianensis* Gong

【選定理由】

県内では平野部に広く分布するが、採集・観察例の少ない種である。主に、河川敷や草原に棲み、どの生息地においても個体数は少ない。開発や河川工事等にもなう生息域の縮小、個体数の減少が心配される。

【形態】

体長 6～8mm。全体に灰褐色で細長く灰色の横斑がある。歩脚は褐色で腿節に黒い条がある。



刈谷市小垣江町, 2011年10月4日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

名古屋市、半田市、常滑市、岡崎市、豊田市、知立市、刈谷市、西尾市、豊川市、豊橋市で記録されている。

国内では本州、四国、九州に分布する（新海ほか, 2018）。

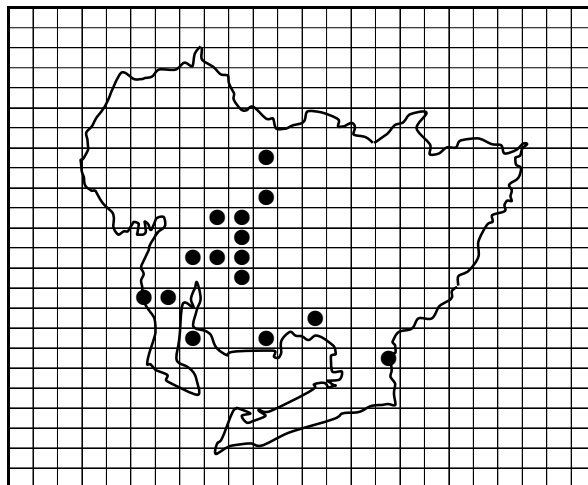
【生息地の環境／生態的特性】

河川敷や草原に棲み、地表を素早く徘徊する。一見、アリに似る。

【現在の生息状況／減少の要因】

どの生息地においても個体数は少なく、単独か数個体しか観察されていない。近年、開発等による生息地の消滅で個体数が減少している。

県内分布図



【保全上の留意点】

河川敷の護岸工事や、草原の開発は最小限にとどめ、生息適地の保存が望まれる。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.128,256. 偕成社, 東京.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.49,184. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.23. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.551,638. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.402,581. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)

【 情報不足の種 】

情報不足の種について、簡易な解説を以下に記述した。

1. ムロズミソレグモ *Takeoa nishimurai* (Yaginuma)

クモ目 スオウグモ科 (国：リスト外)

体長は雌雄ともに 11mm。腹部は長く一見コモリグモのようである。体全体は、やや赤味を帯びた黄褐色である。県内では、1997 年に名古屋市天白区で採集された記録があるのみ。全国的に見ても非常に珍しいクモであるが、分布・生態とも不明な点が多く情報不足とされた。

(1. 緒方清人)

